



分科会テーマ	対象	開催概要	活動ポイント
組織改革と人材育成			
生成AI時代のIT人材育成	・ ITエンジニアの役割変化や育成に興味のある方	生成AIの急速な発展は、ITエンジニアの役割やスキルセットに大きな変革をもたらすと言われています。例えばプログラマーの需要は減少し、生成AIの生成物をチェックするエンジニアやより上流工程のエンジニアにシフトすると言われていますが本当でしょうか？本分科会では、生成AIがITエンジニアの職務に与える影響を多角的に分析し、今後のキャリアパスや必要なスキルの変化を探求し、どのようにしてエンジニアとしての価値を高めるかを研究します。	・ 生成AIがもたらすITエンジニアの役割変化 ・ 必要とされる新しいスキルセット ・ 生成AIと共存するためのキャリア戦略
システム利用者に対するCXの研究	・ CXに興味のある方	企業のDXが進む中、システムの利用者体験（カスタマーエクスペリエンス、CX）の向上は、顧客満足度や従業員満足度の向上に直結します。本分科会では、システム利用者に対するCXの重要性とその具体的な改善方法について研究し、企業全体のパフォーマンス向上を目指します。	・ システムの利用者体験の向上の重要性について ・ 具体的な改善方法 ・ 企業全体のパフォーマンス向上につながった事例研究
情報システム部門改革			
企業における情報システム部門の新たな存在意義を探る ※東日本でも同テーマの分科会を募集しています	・ これからの情シスの存在価値に興味のある方 ・ 数年後の情シスの形を考えている方	情報システムでは、アジリティが重視され、今やビジネスの成長と革新を支える重要な役割を担うことが求められています。しかしユーザーやデータサイエンティストなど様々な立場の人が協業して開発する「フュージョン開発」が注目を浴びたり、SaaSをユーザ部門自らが契約するなど、もはや企業の情報システムは情報システム部門の専売特許ではなくなりました。アプリ開発やソフトやハードの保守が減る中で、情報システム部門の価値はどこにあるのでしょうか？ 本分科会では、情報システム部の位置づけの変遷や存在意義を研究し、単にシステムやPC、セキュリティの運用管理者としての役割だけが残るのか、新たな役割を担う部門としてトランスフォーム（変革）をしていくのか、その必要性和具体的なアプローチについて議論し企業における新たな存在意義を探ります。	・ それでも情報システム部門が必要な理由は ・ 情報システム部門はどうトランスフォームするのか ・ 情報システム部門の新たな存在意義は何か

西
日本

アシスト ソリューション研究会 2025年度 分科会募集テーマ

● 募集要項／参加申込はこちらから！

<https://www.ashisuto.co.jp/solution-studygroup/workgroups-apply/>

一次締切：2025年1月31日（金）

二次締切：2025年2月21日（金）

ソ研2025



分科会テーマ	対象	開催概要	活動ポイント
技術探求			
マルチモーダル生成AIの最前線 → 発足見送り	・ 生成AIの基本的な知識を有する方	近年、生成AI技術は急速に進化し、テキストのみならず、画像、音声、動画、構造化データなど、複数のモーダルを統合する「マルチモーダルAI」が注目を集めています。本分科会では、マルチモーダル生成AIの最新技術や応用事例を調査し、企業での活用方法を研究します。	・ マルチモーダルAIの最新技術研究 ・ マルチモーダルAIの応用事例調査 ・ マルチモーダルAIの企業での活用方法
社会課題			
デジタル防災 → 発足見送り	・ 社会課題をITで解決することに興味がある方 ・ 自社の災害対策を考えたい方	近年、自然災害の頻度と規模が増加しており、迅速かつ効果的な対策が求められています。IT技術の進展により、災害予測、情報共有、被災者支援など多岐にわたる分野での革新が期待されています。本分科会では、最新技術の研究を通じて、ITを活用した災害対策の研究と実践を考えます。	・ 自然災害の頻度と規模の増加傾向 ・ IT活用による災害対策の進歩 ・ 具体的な実践事例の研究

※具体的な研究内容や焦点は、分科会でご検討いただきます



分科会テーマ	対象	開催概要	活動ポイント
組織改革と人材育成			
企業戦略に基づく 組織変革とリスクリング	・組織としてのリスクリングに関心がある方 ・個人のリスクリングによる組織改革に関心のある方	「リスクリング」は個人がどうなりたいかではなく、企業が描く戦略に沿って社員を再配置するために必要なスキルを獲得させる仕組みです。新たな価値を生むためのトランスレーター人材、内製化のためのIT人材、戦略立案のためのアナリストなどなど、何の目的のためにどのようなスキルをもった人材が企業に必要かを明確にすることで、リスクリングが推進されるのではないのでしょうか？本分科会では、企業戦略の観点から、リスクリングの必要性と実現までのプロセスを研究します。	・なぜリスクリングの前に企業戦略が重要なのか ・DXに成功する企業の組織変革とリスクリングの現状と課題を調査 ・リスクリングの成功事例の研究



分科会テーマ	対象	開催概要	活動ポイント
情報システム部門改革			
「ビジネス創出」のためのDX成功につながるPoXガイドラインの作成 → 発足見送り	・ PoC / PoV / PoBのいずれかに携わったことがある方 ・ ビジネス創出のプロセスを研究したい方	DXを推進するためには、PoC（概念実証）、PoV（価値実証）、PoB（ビジネス実証）（まとめてPoXと表示）の各フェーズを効果的に進めるためのガイドラインがあると成功確率が上がるのではないのでしょうか？本分科会では、各フェーズでの具体的な目標設定、実施プロセス、評価基準を明確化することで、DXプロジェクトの成功率を向上させる方法を提案します。 PoCで技術的な実現可能性を評価し、PoVでビジネス価値を実証し、PoBで市場投入と商業的成功を目指す一連の流れを体系化します。また、それを実施するためのステークホルダーとのコミュニケーションや成功を支える組織体制の整備についても検討します。	・ 既存のPoC/PoV/PoBに関する理論やフレームワークの整理 ・ 成功事例と失敗事例を収集し、各段階での課題と解決策を分析 ・ ビジネス創出につなげるためには、何を変えるべきかを明確にしたガイドラインなどを検討
自社の顧客のCX向上におけるIT部門の役割	・ IT部門が直接顧客のCXにどう関与できるか興味のある方	自社のお客様のCX（カスタマーエクスペリエンス）を向上させるためにIT部門に何ができるかを研究します。先進的なIT部門が顧客のCX向上に貢献している事例を分析し、IT分野を含め多面的に成功要因を探ります。顧客ニーズを深く理解し、それに応じたITサービスを提供することはもちろん、顧客と直接接点がある部門とIT部門との関係性、顧客サービスに関するIT部門の権限や役割、IT部門の要員としての考え方など、IT部門自身が「顧客起点」となるための考察を行います。	・ 顧客のCX向上に成功した企業の事例研究 ・ IT部門が顧客のCX向上に果たした役割は何か ・ IT部門が提供するテクノロジーを顧客起点とするには？
企業における情報システム部門の新たな存在意義を探る ※西日本でも同テーマの分科会を募集しています	・ これからの情シスの存在価値に興味のある方 ・ 数年後の情シスの形を考えている方	情報システムでは、アジリティが重視され、今やビジネスの成長と革新を支える重要な役割を担うことが求められています。しかしユーザーやデータサイエンティストなど様々な立場の人が協業して開発する「フュージョン開発」が注目を浴びたり、SaaSをユーザ部門自らが契約するなど、もはや企業の情報システムは情報システム部門の専売特許ではなくなりました。アプリ開発やソフトやハードの保守が減る中で、情報システム部門の価値はどこにあるのでしょうか？ 本分科会では、情報システム部の位置づけの変遷や存在意義を研究し、単にシステムやPC、セキュリティの運用管理者としての役割だけが残るのか、新たな役割を担う部門としてトランスフォーム（変革）をしていくのか、その必要性和具体的なアプローチについて議論し企業における新たな存在意義を探ります。	・ それでも情報システム部門が必要な理由は何か ・ 情報システム部門はどうトランスフォームするのか ・ 情報システム部門の新たな存在意義は何か



分科会テーマ	対象	開催概要	活動ポイント
技術探求			
生成AI分野における特化型LLMの研究 → 発足見送り	・ 生成AIの基本的な知識を有したり利用している方 ・ 特化型LLMに可能性を感じる方	特化型LLM（特化型大規模言語モデル）は、特定の業界や業務に最適化されたAIであり、その応用はこれから広がろうとしています。既に法務関連では契約書のチェックや作成をするサービスが多数存在します。今後も特定の業種・業務に特化したLLMにより業務がサポートされたり、また各種コンシェルジュサービス（保険プランナー、天気予報士、市場分析など）のような個人秘書的な役割も期待できます。 本研究では、特化型LLMの導入事例を分析し、各ビジネス領域における適用可能性を検討し、多様な分野での活用方法を提案します。また、特化型LLMの導入に伴うコスト、効果、リスクのバランスを考慮し、最適な実装戦略を示します。	・ 特定の業界や業務に最適化された特化型LLMの事例の収集 ・ 特化型LLMの具体的な手法とその効果を明示 ・ ビジネスへの適用に向けたガイドラインなどを検討
ITトレンドの変遷に基づく未来予測	・ ITトレンドの未来について研究したい方	1980年代までは大型汎用機、1990年代はパソコン、2000年代はインターネット、2010年代はスマホとSNSが世の中を席巻。2020年代は生成AIなどにより潮目が変わりました。これらの変遷を辿りながら、今後どのような技術トレンドが生まれるのかを予想し、新技術の到来がどんな変化をもたらすのかを考えます。果たして生成AIの登場で加速したといわれるシンギュラティは訪れるのか？また産業や職業構造はどう変化するのか？その時、未来に向かう我々人間は何をすべきか、様々な角度から議論を積み重ね、予測してみましよう。	・ 生成AI活用によるサイバー攻撃の予防やデータ漏洩防止 ・ リアルタイムの脅威検知などの応用例の検討 ・ 生成AI導入に伴うリスク管理
社会課題			
ITによる社会課題解決の糸口とビジネスチャンスを探る → 満席	・ 社会課題をITで解決することに興味がある方	保育士、介護士、教師、配送ドライバーなど国民の生活に必要な職業でありながら、深刻な人手不足に陥っている分野があります。そうした分野は往々にしてIT化やデジタル化が遅れていたり、広く普及していないのではないのでしょうか。我々の社会環境の中でITやデジタル化が遅れている分野や職業はどこか、その分野における先進的なIT活用を調査・想像し、ITでその社会課題をどう解決するかを探ります。	・ それぞれの分野でIT化が遅れている原因を探る ・ 既存の適用事例の成功・失敗要因の特定 ・ 新ITソリューションの提案とその実現可能性を評価



分科会テーマ	対象	開催概要	活動ポイント
組織改革と人材育成			
自ら学ぶ人であふれている会社の作り方 → 発足見送り	・ 全社規模での学びに興味のある方 ・ 一般社員のDX人材化に興味のある方 ・ 企業の風土づくりに興味のある方	社員が自ら学ぶ文化を育むためには、個人の自主性を重視し、学習の機会とインセンティブを提供することが必要です。技術トレンドに対応するための学びの場の創出や学習成果を評価する仕組み等が求められます。本分科会では、これらを整備し社員全員が学び続ける風土を形成、会社全体の知識レベルを向上させる方法を探求します。また、社員が自ら学ぶ文化が醸成されるための組織構造、チーム編成、デジタルツールの活用も検討します。	・ 学ぶ人であふれている会社とは？ ・ 社員自らが学ぶ風土づくりに必要なこと ・ 迅速な意思決定の仕組みや組織の検討
世代を超えたシナジー → 発足見送り	・ 世代の違いによる問題をお持ちの方 ・ ベテラン社員活躍に興味のある方 ・ 多様性を生かした働き方に興味のある方	本分科会では、各世代の価値観や働き方に対する理解を深め、若手とベテランの間で知識と経験の交換を促進するための方法を研究します。世代間のギャップによる働きにくさがクローズアップされがちですが、逆に世代間ギャップ、多様性を活かして強い組織を構築することを目指します。	・ 各世代の価値観や働き方の違いを理解 ・ 若手とベテランの協力を促進するためのチーム編成 ・ 世代間ギャップや多様性を強みに変えるために必要なこと
情報システム部門改革			
業務横断案件をリードできる コンサル部門への変革	・ 今後の情報システム部の在り方にお悩みの方 ・ ユーザー部門主導でシステム導入を進めていきたいとお考えの方（情シス、ユーザー部門問わず）	本分科会では、情報システム部門の役割として、情報システム部門が業務横断的な案件をリードできるコンサルティング部門へと変革する方法を研究します。部門間のコミュニケーション力、問題解決力、業務横断的な視点、コンサルティングスキル等を強化することにより、企業全体の業務効率化と成長を支える基盤を提供できる情報システム部門を目指します。	・ 情報システム部門の最後の役割は？ ・ 業務横断コンサル機能を果たすために必要なスキル強化 ・ 全社の業務効率化と成長基盤を提供できる情報システム部門とは？



分科会テーマ	対象	開催概要	活動ポイント
技術探求			
AIで業務をリデザイン	・生成AIで業務の生産性を向上させた方 ・生成AIを現在ご利用されている方	生成AIは、企業の生産性を大幅に向上させる可能性を持っています。本分科会では、ビジネスプロセス・業務プロセスのどこに生成AIを採用することで最大の価値を得られるかを研究します。また、生成AI導入による効果を最大化するための導入戦略、リスク管理の手法についても検討します。	・生成AIによる作業効率向上の事例研究 ・生成AIが最大価値を発揮する業務は？ ・適用分野ごとの生成AI導入ガイドライン
AIで実現する サイバーセキュリティ最前線	・企業のセキュリティ対策を業務としている方 （製品提供ベンダーも含む） ・生成AIの利用経験があり、知見のある方	本分科会では、AIが提供する高度なデータ解析や異常検知機能を活用した、サイバーセキュリティの強化について研究します。また、AIの学習データが偏ることによるリスクや、AIそのものが攻撃対象となる可能性についても考察し、セキュリティ対策を強化するためのアプローチを提案します。	・生成AI活用によるサイバー攻撃の予防やデータ漏洩防止 ・リアルタイムの脅威検知などの応用例の検討 ・生成AI導入に伴うリスク管理
社会課題			
グリーンテクノロジーと企業戦略 → 発足見送り	・グリーンテックに興味のある方 ・ESG経営に興味のある方 ・ビジネスと環境の共生を実現したい方	IoTセンサーを使ったエネルギー管理システム、リソースの最適化、廃棄物管理の効率化など、ITを活用した環境保護と資源の有効利用の具体的な取り組みを分析します。それにより、これらの技術が企業や地域社会の持続可能性をどう高めるかを考え、効果的なグリーンテクノロジーの導入戦略とその社会的影響について提案します。	・ITを活用した環境保護や資源の有効利用の取り組みの分析 ・効果的なクリーンテクノロジーの導入戦略と影響について提案 ・持続可能なビジネス戦略のもつブランド価値や競争力に与える影響